

多様性に配慮したトイレに関する研究 —性的マイノリティへの配慮の視点から—

社会福祉学科 コミュニティ福祉系 後藤百花

本研究では、性的マイノリティに関わる課題を踏まえ、「より多くの人にとって利用しやすいトイレ」について検討することを目的とした。

現在、日本ではいわゆる LGBT 法がなく、その整備が取り組まれている。

先進的な事例について、トイレの構造を「スペース・エリア・個室」の3つの要素によって捉え比較・検討した。東京五輪で実践された多機能トイレエリアを設けるパターンは、多様なニーズに対応しやすいことを示した。様々な種類のトイレを設置することで多様なニーズに応えることができる。

トイレ利用について本学の学生を対象に行った調査の結果、男女共用個室トイレを複数設置することが、性的マイノリティへの配慮としても有効であると明らかにした。また、建設前に施設の特性と利用者のニーズを理解しておくことが重要であることを示した。

現状のトイレ設備に対するアプローチが必要であることを今後の課題として示した。